

11. 30セント・メリー・アクス



『ガーキン』（意味：きゅうり）の愛称で知られる30セント・メリー・アクスは金融街シティオブロンドンに聳え立っている。ガラス張りのビルが多く立ち並ぶロンドンの街。その中でもこの円錐状のフォルムは一際異彩を放っていた。

ノーマン・フォスターとオヴ・アラップによる三角外周構造と三角サッシの組合せは端部に至るまで一つの狂いもなく見事に収められており、他のハイテク建築で見られるブレースむき出しの外観とは違う、スタイリッシュなファサードを生みだしていた。

オフィスビルの為、建物中に入ることは出来なかったが、外周構造によって開放的になった内部空間はそれまでにはないオフィス環境を作り出しているだろう。各階のスラブを切取って出来た階段状の吹抜けは採光の確保、空気の循環の為だけでなく、働く人々にとって階層を超えたコミュニケーションツールの役割を担っているに違いない。

田向俊己